（公財）神戸大学六甲台後援会だより（74）

ここ数か月で六甲台を席巻した話題といえば、皆さまご存知の生成ＡＩの襲来になります。教員サイドではこれまでのレポート課題を課すことはできなくなると考えたり、論文作成に用いられた場合にどのように対応したらよいかについて議論したりと様々です。中には積極的に教育、研究に活用しようという方もいますが、現時点では少数派に留まります。

生成ＡＩのことに触れる前に、今から30年前に誕生したWorld Wide Web（WWW）の話から始めたいと思います。インターネットの歴史は思っているよりも古く、１９６０年代に始まりますが、日本では１９８４年にＪＵＮＥＴが始まっています。当時の通信環境は今よりも悪く、テキストベースで情報のやり取りが行われており、電子メールもＵＮＩＸ端末と呼ばれるものから送受信していました。しばらく経ってからgopherと呼ばれるテキストベースの情報検索システムが出来上がり、世界中の情報の検索が以前よりも容易にできるようになりました。１９９３年に入るとWorld Wide Webの概念がNCSA Mosaicという世界初のブラウザによって実現できるようになりました。それからの歴史は皆さんが日々ホームページと呼んでいるページの爆発的な普及によって知っているところです。余談ですが、ホームページとはもともとそれが開発されたＣＥＲＮのウェブサイトのトップページを指し、Mosaicの家のマークのボタンをクリックするとＣＥＲＮのウェブサイトに飛んで行きました。その後各ウェブサイトのトップページのことをホームページと呼ぶようになり、途中からウェブサイト全般のことを単にホームページと呼ぶようになりました。言葉の誤用が一般化する典型例の一つです。

World Wide Webのすごいところは、リンクという概念でサイト同士を簡単に紐づけることですが、やがてrobotと呼ばれる世界中のウェブサイトをクロールするプログラムによって、根こそぎ情報がインデックス化されることになりました。検索エンジンの正体がこのrobotですが、研究、教育に対しても大きな影響を及ぼしました。知りたい必要な情報が検索窓に単語を入力することによって瞬時に出てきます。教育で真っ先に問題になったのは、情報の「コピペ」であり、剽窃がいとも簡単になってしまったことです。レポートや論文の作成に安易に使われました。剽窃対策もかなり進みましたが、回避する方法もありイタチごっこの様相を呈しています。ただし必要な情報を得る手段としてはインターネット上の検索はなくてはならないものとなり、その情報の元がrobotによる膨大な世界中の情報のコピペに基づいているという事実には目を向けられていません。World Wide Webがgopherを始めとした前身がないと出てこなかったのと同様、生成ＡＩもTransformerという偉大な前身がないとこの世に出てきませんでした（Transformer自身にももちろん先達がいます）。古典派経済学がなければケインズやマルクスの経済学が誕生しなかったのと同様です。新しいものは古いものからしか生まれないといった言葉の通りでしょう。

生成ＡＩの登場は脅威である、といったこともいくつか言われています。雇用を奪ってしまうのではないかといった意見もありますが、経済学者リカードの「機械論」以来の古典的な経済学の論題であり、雇用を奪う側面と雇用を創出する側面の２つがあることを見逃してはなりません。

教育の現場で真っ先に心配されたのが、自分の手を煩わせずに簡単にレポートなどが作成できてしまうことで、それをどうやって見破ったり、禁止したりできるかといったことでした。Web検索の賢い版が生成ＡＩだと見る方もいますが、こちらの問いかけ方によっては（＝いい質問をすれば）、もっともらしい答えを返してくれます。このもっともらしさが実は肝なのですが、返ってきた答えもどきのものの真実性をどうやって判定するのでしょうか。かつて学部のゼミで次のようなやり取りを行いました。

「この内容、どうして調べてきたの？」

「ネットで調べたら、一番トップに載っていました。」

「そうなんだ。でもトップに載っていたからって、そこに書いてあることが本当かどうかは分からないよ。」

「分かりました。でも本や論文など、きちんと活字になっているものに書いてあることは正しいんですか？そこに書いてあることが正しいかどうかはどうやって調べるんですか？」

「いい質問だ。」

そうです。返ってきた「答え」が正しいかどうかは、これまで以上にホンモノの研究力がないと分かりません。ＡＩ自体には、よい問いかけを発する能力はありません。きちんとした問題を問題として設定するのは、いやそもそもそれが問題として設定できるかを判断できるのは、われわれの能力に依っています。問題をきちんと設定することが研究のほぼすべてと言っても過言ではなく、きちんと問題設定ができれば答えはすぐそこにあるとも言えます。生成ＡＩは答えをすぐに求める方には格好の相棒になるでしょうが、問題設定をきちんとしっかりと考える方には反面教師になると思われます。Web検索をはじめとして生成ＡＩも真理を探究する大学人を鍛える道具だと肯定的に捉えることもできるでしょう。

教育面、研究面への生成ＡＩの影響をみましたが、大学においては事務に与える影響も無視できません。特に業務量の増大に困っている事務作業については、生成ＡＩは定型的な作業の自動化（もちろん機微な個人情報の取り扱いは除いて）には大きな効力を発揮します。生成ＡＩとＲＰＡを組み合わせた自動化もすでに行われていますし、神戸大学においても兵庫県の若手職員と協働しながら、事務作業における活用方法について検討を始めています。

ウェブページの検索で必要な情報を得ることは、教育、研究のみならず日常生活にすっかり溶け込んでいて、検索で情報を得ること自体を疑問視することは、ほぼないと言っても過言ではないでしょう。ウェブページにある膨大な情報とその検索というこれまで築かれてきた世界に、生成ＡＩの世界は溶け込んでいくのではないかと思います。脈略のないことを書きました

が、生成ＡＩをめぐる世界は1日単位、いや数時間単位で動いており、ここで書いたことがこの原稿が公開される頃には遠い過去のものになっている可能性も大です。生成ＡＩ利用のためのガイドラインが作成されて、教育、研究さらには業務で活用されているかもしれません。いずれにせよ、人類のこれまでの大発明と同様に、どのようにして共存していけばいいかを大学人の英知を結集して今後とも考えていければと思っています。

（経済学研究科教授　玉岡雅之）

令和４年度事業報告について

当財団の令和４年度の事業報告及び財務諸表につきましては、令和5年6月9日に開催された理事会及び6月28日に開催された評議員会において監査報告書を含めて報告・承認され、6月29日に兵庫県に定時報告いたしました。

当財団をご支援くださる皆様方に財団の活動内容をご理解いただきたく、ホームページ上でも、⑴学術交流促進・学術成果公開等助成事業（学術交流の促進、学術成果の公開、学術研究助成等に係る助成事業）、⑵教育の充実に係る助成事業、⑶学術基盤整備助成事業、⑷学術交流施設（「ロイ・スミス館」）の維持管理事業という当財団が行う主要な事業の概要について、財務諸表の要旨と併せてご報告させていただいております。

令和４年度では、学術交流の促進と学術成果の公開、教育の充実に係る助成事業を継続して実施すべく事業計画を立てていましたが、前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から教員、学生に対する様々な活動が制限され、教員の海外派遣支援、国外でのシンポジウム開催支援、学生の海外派遣支援等の事業については計画どおりには実施できないものもありました。

学生の大学構内入構制限は徐々に緩和されましたが、一部の授業は遠隔で実施される中、「キャリア形成支援」（六甲台就職相談センター支援）は、対面での面談と並行してWeb面談を実施しました。また、凌霜出身者の講師による寄附講義「社会科学の実践」（学部1・2年生対象）は、毎年好評の中実施していることをご報告いたします。

凌霜会会員の皆様には今後とも、本財団に対して、従前と同様のご協力とご支援を賜わりますようよろしくお願い申し上げます。

事業報告の概要（金額は千円未満四捨五入）

1　学術交流促進、学術成果公開、学術研究助成に対する助成事業・・・・・・・・・・・・・・・・16,842千円

1－1　教員海外派遣支援費・・・・・・・・7,000千円

○経済学研究科

・片山三男講師（令和5年2月～令和5年3月、タイ他）
目的：アジア諸国における小型二輪車の使用状況調査

・奥西孝至教授（令和4年9月～令和4年10月、ベルギー）
目的：グローバル化の進展における南低地地方（現ベルギー）の歴史的役割に関する学際的研究

○経営学研究科

・善如悠介准教授（令和4年9月～令和5年8月、オースト

ラリア）

目的：プラットフォームにおけるデータ利用に関する研究

○経済経営研究所

・西谷公孝教授（令和5年1月～令和5年3月、ドイツ）

目的：サステナビリティ経営の日独比較研究

・江夏幾多郎教授（令和5年1月～令和5年5月、英国）

目的：新規学卒入職者の意識の変遷についての国際比較

1－2　学会・シンポジウム等開催支援・・・4、586千円

○経済学研究科

・第7回貿易及びマクロ動学国際カンファレンス

期間　令和5年2月

場所　神戸大学（オンライン）

・The 7th Annual International Conference on Applied Economics in Hawaii

期間　令和4年11月

場所　神戸大学（オンライン）

・北欧及び西欧における国際教育研究交流の先進事例調査及び実施報告会（調査期間：令和4年6月）

期間　令和4年7月

場所　神戸大学（ハイブリッド開催）

○経営学研究科

・若手ファカルティディベロップメント研究会

期間　令和5年3月

場所　和歌山県

○国際協力研究科

・国際協力研究科創立30周年記念講演会・シンポジウム

期間　令和4年4月

場所　神戸大学出光佐三記念六甲台講堂

○経済経営研究所

・The 13th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW

期間　令和4年12月

場所　神戸大学

・CCSS School on Computational Social Science CCSSワークショップ

期間　令和4年12月

場所　（オンライン）

1－3　学術成果の公開・・・・・・・・・・・・2、256千円

(1)学術研究成果刊行支援費・・・・・・・・・・2、200千円

○経済学研究科

・中村健太著「安定的な特許制度に向けて」（勁草書房）

○国際協力研究科

・金子由芳著「コロナ禍の中小企業と法変化―日本とアジアからの視点」（神戸大学出版会）

(2)海外学術雑誌投稿支援・・・・・・・・・・・・・56千円

○国際協力研究科

・島村靖治教授「Husband and Wife's Social Networks and the Use of Organic Fertilizers in Central Vietnam」

1－4　研究プロジェクト支援費・・・・・・・・・500千円

○経済学研究科

・茂木快治准教授
研究課題　時変閾値効果のモデル化と検定
1－5　社会システムイノベーションセンター（社会科学系研究分野）に対する支援・・・・・・・・2、000千円
・榎本正博教授（センター長）
社会システムイノベーションセンター部門活動経費
1－6　襄山研究奨学基金・・・・・・・・・・・・500千円
・南知惠子教授
課題　仕事経験の「幅」が従業員のキャリア・アダプタビリティに及ぼす影響
2　教育の充実に係る助成事業・・・・・・・・・9、603千円
2－1　学部学生教育支援費・・・・・・・・・・5、372千円
(1)成績優秀者に対する奨学金・・・・・・・・・1、296千円
・社会科学特別奨励賞（凌霜賞）（9名）
・六甲台賞（3名）
(2)教育プログラム経費・・・・・・・・・・・・・700千円
・IFEEK（5年一貫経済学国際教育プログラム）
・世界水準での経済学の学びを可能にするための英語論述力の強化
(3)海外派遣支援費・・・・・・・・・・・・・・250千円
・神戸グローバルチャレンジプログラム
(4)学部相互履修科目開講支援費・・・・・・・・1、126千円
期間　令和4年度前期・後期
対象　法学部、経済学部、経営学部（3学部2年生後期以降対象）
(5)学部共通講義開講支援経費（寄附講義）・・・300千円
・凌霜会 六甲台後援会寄附講義「社会科学の実践」
期間　令和4年度後期
対象　法学部、経済学部、経営学部（3学部の1、2年生対象）
(6)キャリア形成教育経費・・・・・・・・・・・1、700千円
2－2　大学院学生教育支援費・・・・・・・・・・3、830千円
○経済学研究科
・教育プログラム経費
大学院生の研究活動支援
○経営学研究科
・海外派遣支援
・MBA加護野忠男論文賞
○法学研究科
・教育プログラム経費
卓越した大学院拠点形成による若手研究者養成
アジア法と紛争管理のサマースクール（Kobe SALAD）
法科大学院共通到達度試験支援
・海外派遣支援
・エクスターンシップ実施経費
○国際協力研究科
・海外派遣支援
2－3　特定基金による学生教育支援費・・・・・・400千円
(1)田崎奨学基金による奨学金・・・・・・・・・400千円
3　学術基盤整備に係る助成事業・・・・・・・・3、030千円

(1)学術基盤整備支援・・・・・・・・・・・・・・・3、030千円
○経営学研究科
・NPM関連データサービス
4　学術交流施設維持管理事業・・・・・・・・・・・・・559千円
(1)学術交流施設「ロイ・スミス館」維持・管理・559千円
5．事業費付帯経費　・・・・・・・・・・・・・・・12、264千円

いつも皆様のご寄附誠にありがとうございます

今年も凌霜会会誌7月号に凌霜会会員の皆様へ「ご寄附のお願い」を同封させていただきました。前号でご報告させていただいた以降、8月5日現在でのご報告となりますが、多くの皆様からご寄附をいただいております。誠にありがとうございます。

金額別に、魚住　清様（昭32法）2千円、藤澤隆博様（昭38経済）、大矢　弘様（昭46経済）、守屋五郎様（昭31経営）、岡野　勝様（昭36経営）各3千円、箕　若菜様（平8経営）3千3百円、有川正治様（昭40法）、山下智久様（昭33経済）、石田敏朗様（昭34経済）、山本雅俊様（昭39経済）、不動雅一様（昭41経済）、井上泰一様（昭46経営）、奥村禎敏様（昭55経営）、柴田孝生様（昭55経営）、志ア雅美様（昭55経営）、小川則子様（昭40法・小川幸士様のご令室）各5千円、岡本光弘様（昭31法）、柴崎　晃様（昭31法）、菊谷裕洋様（昭37法）、櫻井　豊様（昭38法）、徳廣　巌様（昭38法）、上岡國威様（昭40法）、出原敏様（昭47法）、松島茂樹様（平元法）、川住奈緒美様（平21法）、多田　葵様（平27法）、河野映二郎様（昭32経済）、横田寿夫様（昭35経済）、杉田文夫様（昭36経済）、溝口文雄様（昭36経済）、安田　治様（昭46経済）、山本茂樹様（昭50経済）、香川次朗様（昭51経済）、小林泰明様（昭51経済）、市坡幹久様（昭53経済）、横尾幸信様（昭54経済）、三島　明様（昭54経済）、中村滋彦様（昭60経済）、道関貞夫様（昭31経営）、古瀬清人様（昭32経営）、柳本保武様（昭33経営）、関口年弘様（昭42経営）、小仁昌敏様（昭43経営）、風早正幸様（昭43経営）、松田兼太郎様（昭43経営）、野瀬泰良様（昭45経営）、大辻茂雄様（昭46経営）、岩崎　隆様（昭47経営）、小林洋一様（昭48経営）、藤井義久様（昭50経営）、徳永　真様（昭51経営）、石川雅紀様（名誉教授）各1万円、藤原潤一様（昭46法）、武貞文隆様（昭51経営）、川田重信様（昭53経営）各2万円、河﨑英三様（昭45法）、小野俊明様（昭36経済）、小暮一寿様（平元経済）、掛　幸善様（工学部卒業生）各3万円、小幡浩士様（昭42法）、平岡眞樹郎様（昭29経済）、鶴　浩一様（昭32経済）、片桐　陽様（昭40経済）、高松牧人様（昭51経済）、倉島鋏一様（昭35経営）、番　尚志様（昭44経営）、尾上二郎様（昭47経営）、楠本崇人様（昭51経営）、正司健一様（昭52経営）各5万円、山邑陽一様（昭34法）、木村壽彦様（昭46法）、末廣雅彦様（昭36経済）、段野治雄様（昭40経済）、岡田信吾様（昭43経済）、三谷史生様（昭44経済）、辻本健二様（昭45経済）、坂井信也様（昭45経済）、法花敏郎様（昭45経済）、尾野俊二様（昭48経済）、森山　徹様（昭34経営）、原田壽夫様（昭40経営）、平松秀則様（昭42経営）、松坂英孝様（昭55経営）各10万円ご寄附いただきました。お陰様で、令和5年度の寄附金額は301万2千3百円になりました。厚くお礼申し上げます。

毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

よろしくお願い申し上げます。また、**本財団ホームページからもご寄附（クレジットカードによるご寄附、インターネットバンキングによるご寄附等）**いただけますのでご利用ください。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（メール・電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください）

銀行名　三井住友銀行六甲支店
口座番号　普通預金　4069496
口座名義　公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号　00980—9—116772
口座名義　公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎本財団ホームページからのご寄附

ホームページ「ご寄附」のWEB申込みフォームからご寄附いただけます。https://rokkodaifund.com/

〒657—0068
神戸市灘区篠原北町4—11—5
公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局
電話・FAX（078）861—3013
E-mail:k-koenkai@rokkodaifund.com

国民経済雑誌　第227巻　第4号（6月刊）1

論　　文

DCFTA後のモルドヴァ・EU経済関係……吉井昌彦
シェアリングエコノミーの簡単な動学的一般均衡モデル……中村保
税務計画のエコシステム……鈴木一水
リーダーシップ論の回顧と展望……鈴木竜太
吉崎雅浩
久保雄一郎
正規母集団の平均の差の検定に関する一考察……難波明生
紀要のインパクトファクター：
『国民経済雑誌』の雑誌自己引用……三古展弘

書　　評

上林憲雄編著『人間と経営—私たちはどこへ向かうのか—』……西村香織